

神奈川県内における古墳出土鉄製品の形態的検討 －大刀・鉄鎌について－

柏木善治

1. はじめに

鉄製品は錆の影響から、肉眼観察では細部にいたる形態まで把握することが困難であり、それらを出土する古墳の年代は、土器や玄室の年代観に頼らざるを得ないものが多い。把頭や足金具、鎌身(完形)などの優品以外に、断片的な資料まで年代の検討対象となれば、地域における古墳時代研究の進展に繋がることが考えられる。

ここでの分析資料は、神奈川県下の古墳時代後期における古墳(横穴墓含む)玄室から比較的多く出土する大刀・小刀などの刀類と鉄鎌を探りあげた。残存状況の良好な資料をX線透過することで、特に切先(鉄鎌では鎌身部)や関、茎(第3図)の形状を探る。それらを基本に細部形態のセット関係を見出し、先学の鉄製品による編年及び土器・玄室の年代観と対比させ、神奈川における大刀を中心とした鉄製品の編年私案を作成し、そこからみた地域差、歴史的背景の把握までを考慮した。

また、X線透過の副産物として多数の象嵌資料が新たに発見された(第6表)。他県では直刀に関する象嵌資料の発見及び研究が進展しているが、神奈川県ではその数、記録からも遅れているのが現状であり、結果的に新発見が多いこととなった。

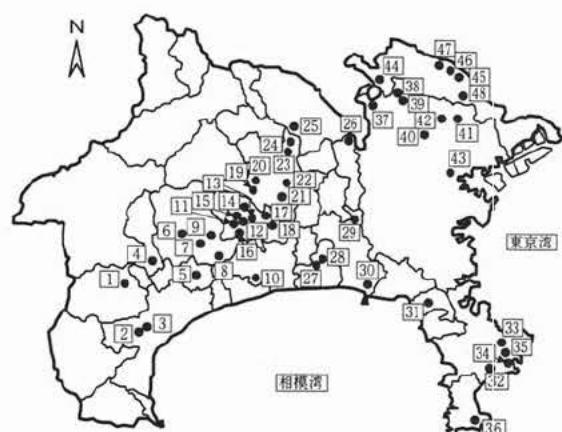
本研究は、平成14年度財団法人かながわ考古学財団研究助成制度にともなう研究である。

2. X線透過撮影

・X線透過撮影は鶴見大学・横浜市立歴史博物館で行い、以下の機器を使用した。

鶴見大学	X線透視検査装置	FI-355	SHIMADZE
	モニター	Video Moniter WV-BM1400	Panasonic
	プリンター	VIDEO COPY PROCESSOR SCT-P65	mitsubishi
横浜市立博物館	X線透過装置	M-150WM	SOFTEX
	X線フィルム	Industrial X-RAYFILM IX50	FUJIFILM
	自動現像器	RH-9001	(株)ニックス
	濃縮現像液	MX-D	(株)ニックス
	濃縮定着液	MX-F	(株)ニックス

- ・鶴見大学でのX線透過は、モニター観察後にプリンター打ち出し(感熱紙)という撮影方法をとるため、打ち出された撮影画像をポジフィルムで複写し、長期保存を考慮した。
- ・X線透過撮影は鶴見大学では永田勝久氏・福田 誠氏・山田真穂氏の、横浜市立博物館では小倉淳一氏の指導・協力のもと、柏木が行った。



1 塚田古墳群	南足柄	25 谷原古墳群	相模原
2 総世寺裏古墳	小田原	26 浅間神社西側横穴墓群	大和
3 久野瀬訪の原古墳群		27 香川篠谷横穴墓群	茅ヶ崎
4 唐沢・河南沢横穴墓群	松田	28 香川篠山横穴墓群	
5 比奈塚横穴墓群	中井	29 代官山横穴墓群	藤沢
6 桜土手古墳群		30 大源太古墳	
7 稲荷塚古墳群		31 久木5丁目横穴墓群	逗子
8 広畠古墳群		32 長沢1号墳	
9 金目原古墳群		33 大塚古墳群	横須賀
10 万田熊ノ台横穴墓群	平塚	34 台ノ坂古墳	
11 登尾山古墳		35 吉井城山横穴墓群	
12 燕面古墳		36 江奈横穴墓群	三浦
13 御領原古墳群		37 熊ヶ谷横穴墓群	
14 日向・渋田古墳群		38 市ヶ尾第二地区18街区	
15 三ノ宮・下尾崎横穴墓群		39 市ヶ尾横穴墓群	
16 笠置・谷戸遺跡		40 新宮台横穴墓	横浜
17 高森・赤坂遺跡		41 綱島古墳	
18 北高森古墳群		42 新吉田町四ツ家横穴墓群	
19 金井古墳群		43 軽井沢古墳	
20 林添古墳群		44 麻生台横穴墓群	
21 温水高坪遺跡群		45 久本横穴墓群	
22 寺ヶ岡古墳		46 久本桃之園横穴墓群	
23 上原古墳群		47 久地西前田横穴墓群	
24 上依知古墳群		48 井田金堀横穴墓群	川崎

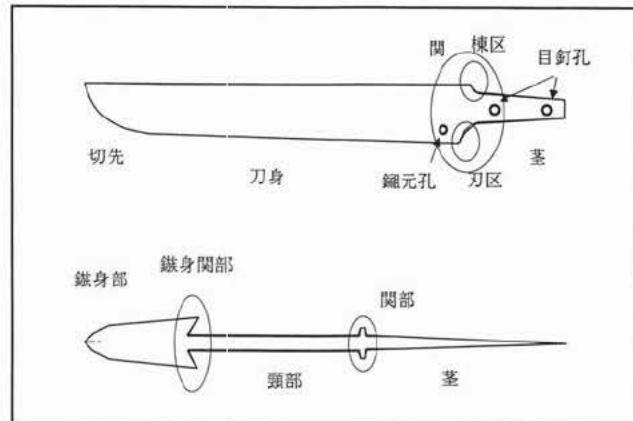
第1図 古墳位置図

切先	断面形	間	茎胴部	茎尻
フクラ付	平造	片間 直角 斜角 撫角	直 類直	一文字尻
フクラ無	切刃造	均等 不均等 (刃斜角)	中細 細 先細	栗尻
カマス	鑄造	均等 (刃側撫角) 不均等 (刃側二段)	直 類直	隅切尻 隅抉尻
		不均等 (側側二段)	中細 細	

名前 = 白杵氏の分類（4～5世紀代は除く）にはあるが、分析資料にはないもの；他、白杵氏の分類には片間で刃側二段あり

名称 = 分析資料にはあるが、白杵氏の分類（4～5世紀代は除く）にはないもの

第2図 刀類各部名称



第3図 各部名称

3. 刀類と鉄鎌の撮影結果と問題点

検討の対象は、県内において横穴式石室や横穴墓の構築が始まる6世紀中頃（先行形態把握のため、それ以前となる古墳時代中期の資料も一部撮影）から、それらがおよそ終焉する7世紀末までの資料とした（第1図・第1・2表）。撮影は2002年に実施し、一部1998年の報告書作成に係る既撮データも含み、刀類70点、刀装具2点、鉄鎌193点をX線透過した。

古墳や横穴墓の各報告書では、鎧に被覆された状態を図化したものが大半であるが、撮影したことによって各部の形態が判明したものが多いため結果となった（第4図）。X線透過の結果を生かして図化した一例が、総世寺裏古墳上部棺床出土の大刀である（第5図）。鎌により関部などの情報が不明であったが、鎧化による膨れ部分と共にその形態が判明している。図の提示としても関部の形態などが分かるように、並列させた図示の仕方が好ましく、さらにその拵えまで判明している大刀などは、推定も勘案した図化が必要であろう。

刀類の分類は臼杵：1984を参考としたが、ここでは後期の資料に主眼を置いたため、不均等両関では刃側斜角、刃側撫角、刃・棟側撫角、棟側二段などの形態が撮影の結果として新たに確認されている（第2図）。分析資料のなかで、断面形は分類にみられる切刃、鎬造が見られず、X線透過を行った資料はすべて平造のようであるが、鎧化により不明なものも多い。また、切先の情報を得るべく撮影も行ったが、徐々に刃先へと薄くなる刀身の地金は、X線透過によっても形態としての不明瞭さを併せ持ち、とくにフクラ付・フクラ無の形態差が判明したものが少ないため、検討対象からは除外している。

鉄鎌は、各墓より遺存状態が良好と考えられる数点を抽出して撮影を行ったが、結果として鎌身部（第3図）、鎌身関部、関部の形態が明確に判明したものは少ない。表面観察によって地金の遺存状態（製作時の形態）を探ることの困難さが浮き彫りとなった。その限られた情報の中で長頸鎌をみると、柳葉形や長三角形、片刃形などで台形関が採用されることが多く、頸部断面形はほとんどが長方形である。鑿箭、端刃などは棘状関が採用されるものが多く、頸部断面形はほとんどが正方形であるという傾向が伺えた。杉山：1988では、関部の変化を6世紀後半頃と捉えているが、笠窪・谷戸遺跡H1号墳（柏木他：2000）の初葬・追葬における鉄鎌の検討では、台形関から棘状関への変化は6世紀末～7世紀初頭の年代が与えられる。しかし、H1号墳の存在する伊勢原及び秦野市域だけをみても、頸部の縦・横サイズには厳密な規格性が認められず、玄室規模との対比や群内での比較など、総体的な評価は分析資料のみでは行えなかった。

玄室に伴う刀類などの鉄製品をみていくなかで、年代的な指標を与えるにあたり宍戸：2000・2001、古墳時代プロジェクトチーム：1995～2002、浜田：1997、田尾・河合：1997などを参考にした（第3表）。これらは土器の年代を中心に考えられているが、鉄製品のみ出土した古墳などは、6世紀代や7世紀代などと広範な年代幅が与えられているものも見受けられる。そのような状況のもと、追葬などによる副葬遺物がどの段階に属するかを、報告書から解読することは困難を伴うものが多いのが実情である。

形態に年代観を付加させるにあたっては、同形態の複数の遺物から最頻値を取るべく年代を考えた（第4表）。関部などが同形態でも年代的には開きを持っているものがあり、形態と年代観を鑑みたときに検討資料で最も数量的に多くなる年代を中心時期として捉えている。この方法では今後の資料数の増加から、中心時期及びその年代幅を変更する必要性も看取される。しかし、これにより複数副葬された刀類でも凡その年代と順列を与えることができ、そこから築造時期と追葬期間などの検討が行えるようになるものと考える。

第1表 X線撮影一覧 (1)

No	市町村	遺構名	遺物名	報告図	挿図番号	撮影場所	
01	小田原市	久野諏訪の原古墳群 總世寺裏古墳	2号	大刀	第10図	12	
02				鉄鏃	第13図	35・37・38・39・40・43・53・54・59・60 10点	
03				大刀	第1図(上棺)	13	
04				大刀	第1図(上棺)	12	
05				小刀	第2・3図(上棺)	11	
06				鉄鏃	第4図(上棺)	17~28 12点	
07				鉄鏃	第6図(下棺)	8~43 36点	
08	秦野市	桜土手古墳群	24号	大刀	第12図	1	
09				鉄鏃	第13図	9・10 5点	
10				鉄鏃	第14図	2・7・9 —	
11			25号	大刀	第27図	1	
12				鉄鏃	第28図	8・12 8点	
13			38号	鉄鏃	第29図	3~5・16・18・19 —	
14				大刀	第55図	1	
15				鉄鏃	第56図	14 6点	
16				鉄鏃	第57図	1・3・4・7・19 —	
17			3号	大刀	概報(写真)	—	
18	平塚市	万田熊ノ台横穴墓群	8号	大刀	第367図	1	
19				小刀	第367図	2	
20				刀装具	第367図	4	
21				鉄鏃	第367図	10・12~16・20・22・28・29 10点	
22			19号	大刀	第376図	6	
23				大刀	第376図	7	
24				鉄鏃	第376図	14 1点	
25	伊勢原市	登尾山古墳 蛭面古墳 日向・渋田古墳群	—	大刀	第7図	1	
26			—	大刀	要旨(番号無)	—	
27			1号	大刀	第10図	1	
28				鉄鏃	第11図	1・3・4 3点	
29			2号	大刀	第17図	1	
30				鉄鏃	第18図	1・5・7 3点	
31		笠窪・谷戸遺跡	H1号墳	大刀	第175図	1・1・1・2	
32				大刀	第176図	2・1	
33				大刀	第177図	3	
34				小刀	第178図	6・1・6・2	
35				小刀	第178図	7	
36				小刀	第178図	8	
37	厚木市	三ノ宮・下尾崎横穴墓群 高森・赤坂遺跡	1号	鉄鏃	第180・181図	12~51 40点	
38				鉄鏃	第10・11図	14・18・31 3点	
39				大刀	未報告	—	
40				大刀	第7図	鶴見大・横浜市博	
41				大刀	第7図	横浜市博	
42			1号	大刀	第7図	鶴見大・ 横浜市博	
43				大刀	第7図	鶴見大	
44				鉄鏃	第7図	掲載分すべて 6点	
45		上依知古墳群		大刀	第7図	鶴見大	
46				大刀	第7図	横浜市博	
47				大刀	第7図	鶴見大・ 横浜市博	
48				大刀	第7図	鶴見大	
49				大刀	第7図	鶴見大	
50		1号	鉄鏃	第6図	1~10・12 11点		
51			鉄鏃	第7図	1A~13A 13点		
52			大刀	第5図	横浜市博		
53			大刀	第5図	鶴見大・ 横浜市博		
54			大刀	第5図	鶴見大		
55	大和市	林添古墳群 寺ヶ岡古墳 温水高坪遺跡群	1号	大刀	第5図	横浜市博	
56				大刀	第5図	鶴見大・ 横浜市博	
57				大刀	第5図	鶴見大	
58				大刀	第8図(下段)	3点	
59				鉄鏃	第8図(下段)	横浜市博	
60			第3地点古墳	大刀	第3図	鶴見大	
61				大刀	第21図(市史)	1	
62				鉄鏃	第274図(報)	5・7・9~11・17・25 7点	
63				大刀	第12図	横浜市博	
64	藤沢市	代官山横穴墓群	6号	大刀	第8図	—	
65				鉄鏃	第9図	1・2・3・4 4点	
66				小刀	第254図	10	
67				小刀	第254図	11-1	
68				大刀	第254図	12-1・2・3・7	
69			8号	鉄鏃	第253図	4~7・9 5点	
70				刀装具	第261図	8	
71				大刀	第25図	鶴見大	
72				大刀	H601PL1	1	
73				小刀	H601PL1	2	
74	横須賀市	長沢1号古墳	第1主体部	大刀	第104図	50	
		大塚古墳群	1号	大刀	第17図	—	
		大塚古墳群	4号	大刀	H721PL1	1	
		台ノ坂古墳	—	大刀	—	横浜市博	
		吉井城山横穴墓群	中横穴	大刀	—	—	

第2表 X線撮影一覧 (2)

No	市町村	遺構名	遺物名	報告図	挿図番号	撮影場所
75	三浦市	江奈横穴墓群	2号	大刀 鉄鎌	第4図 第5図	27 1・2・7
76			1号	大刀	第48図	3
77			5号	大刀	第48図	1
78		市ヶ尾横穴墓群	18号	大刀	第48図	4
79				大刀	第48図	5
80	横浜市					
81		市ヶ尾第二地区18街区	1号	大刀 小刀	第10図 第10図	I001・I003 I002
82						
83		熊ヶ谷横穴墓群	10号	大刀	第56図	1
84			21号	大刀	第110図	1
85			1次5号	大刀	第19図	1
86			2次2号	大刀	第11図	3
87		久地西前田横穴墓群		小刀	第12図	5
88				大刀	第17図	1
89			2次3号	小刀	第17図	2
90	川崎市			小刀	第17図	3
91		久本A横穴墓群	3号	大刀	第13図	36
92				鉄鎌	第11図	16・17・19・20
93		久本B横穴墓群	7号	大刀	第13図	39
94						
95		麻生台横穴墓群	3号	大刀	図版120	1
96				大刀	図版120	2
		井田金堀横穴墓群	7号	大刀	第3図	3

既撮X線フィルム観察

a	河南沢横穴墓群	1号	大刀	第41図	1
b	松田町	唐沢横穴墓群	8号	大刀 小刀	第23図 第23図
c					25 24
d	小田原市	久野諒訪の原古墳群	2号	大刀	第10図
e	中井町	比奈窪横穴墓群	15号	大刀	第68図
f	伊勢原市	三ノ宮・下尾崎遺跡	1号	大刀 小刀	第9図 第9図
g					4 5
h	逗子市	久木5丁目横穴墓群	—	大刀	未報告
i	横浜市	新宮台横穴墓	—	大刀	第9図
j	川崎市	久本A横穴墓群	3号	大刀	第13図
					35
			1998年度撮影	大・小刀 鉄鎌	9点 88点
			2002年度撮影	大・小刀 鉄鎌	61点 (+ 2刀装具) 105点
			撮影総計	大・小刀 刀装具 (鎧) 鉄鎌	70点 2点 193点

第3表 各墓の年代

①: 6c 後半を主体とするもの

所在	遺跡名	号
1	秦野 桜土手古墳群	38
2	秦野 広畑古墳群	1
3	平塚 万田熊ノ台横穴墓群	19
4	伊勢原 北高森古墳群	3
5	厚木 林添古墳群	1
6	厚木 上原古墳群	1
7	横須賀 大塚古墳群	1
8	川崎 久地西前田横穴墓群2次	2
9	川崎 久本横穴墓群A	※
10	川崎 久本横穴墓群B	7
11	川崎 井田金堀横穴墓群	7

②: 6c 末~7c 初頭を主体とするもの

所在	遺跡名	号
1	中井 比奈窪中屋敷横穴墓群	15
2	伊勢原 登尾山古墳	—
3	伊勢原 坪面古墳	—
4	伊勢原 笠窪谷戸遺跡	1
5	相模原 谷原古墳群	1
6	横須賀 大塚古墳群	4
7	三浦 江奈横穴墓群	2
8	横浜 軽井沢古墳	—
9	横浜 市ヶ尾横穴墓群A	18
10	横浜 市ヶ尾第二地区18街区	1

③: 7c 前半を主体とするもの

所在	遺跡名	号
1	小田原 総世寺裏古墳	—
2	秦野 桜土手古墳群	24
3	秦野 稲荷塚古墳	—
4	厚木 上依知古墳群	1
5	藤沢 代官山遺跡	6
6	横浜 熊ヶ谷横穴墓群	21
7	横浜 市ヶ尾横穴墓群A	1
8	横浜 新吉田町四ツ家横穴墓群	3
9	横浜 新宮台横穴墓	—
10	川崎 久本桃之園横穴墓群	5

④: 7c 中頃を主体とするもの

所在	遺跡名	号
1	秦野 桜土手古墳群	11
2	秦野 桜土手古墳群	13
3	秦野 桜土手古墳群	25
4	平塚 万田熊ノ台横穴墓群	8
5	伊勢原 高森・赤坂遺跡	?
6	大和 浅間神社西側横穴墓群	4
7	横浜 熊ヶ谷横穴墓群	10
8	横浜 市ヶ尾横穴墓群A	5

⑤: 7c 後半を主体とするもの

所在	遺跡名	号
1	小田原 久野諒訪の原古墳群	2
2	松田 唐沢横穴墓群	8
3	松田 河南沢横穴墓群	1
4	伊勢原 日向・渋田遺跡	1
5	伊勢原 日向・渋田遺跡	2
6	伊勢原 三ノ宮・下尾崎遺跡	1
7	川崎 久地西前田横穴墓群1次	5

※年代観は報告書や古墳時代研究プロジェクトチーム (1995~2002)、田尾・河合 (1997)、浜田 (1997)、宍戸 (2000-2001) を参考にした
 ※久本A 3は象嵌大刀の年代ではない
 ※土器による年代観では追葬による最終埋葬を表しているものも多い

第4表 関・茎形態の年代 (1)

形態	名 称	遺跡名	号	所在	6c第一	6c第二	6c第三	6c第四	7c第一	7c第二	7c第三	7c第四	8c第一
					MT15	TK10	MT85	TK43	TK209	—	TK217	TK46	TK48 MT21
					500	550	600	650	700				
直角片閑	林添古墳群	1	厚木市										
	大塚古墳群	1	横須賀市										
	庄塚古墳群	1	秦野市										
	大塚古墳群	4	横須賀市										
	稻荷塚古墳	—	秦野市										
斜角片閑	上原古墳群	1	厚木市										
	笠塚・谷戸遺跡	1	伊勢原市										
	笠塚・谷戸遺跡	1	伊勢原市										
	稻荷塚古墳	—	秦野市										
	新吉田町四ツ家横穴墓群	3	横浜市										
撫角片閑	北高森古墳群	3	伊勢原市										
	林添古墳群	1	厚木市										
	桜土手古墳群	38	秦野市										
	上原古墳群	1	厚木市										
	鶴井沢古墳	—	横浜市										
均等両閑	桜土手古墳群	24	秦野市										
	鶴ヶ谷横穴墓群	21	横浜市										
	久本桃之原横穴墓群	5	川崎市										
	上依知古墳群	1	厚木市										
	北高森古墳群	3	伊勢原市										
均等両閑	林添古墳群	1	厚木市										
	大塚古墳群	1	横須賀市										
	上原古墳群	1	厚木市										
	久地西前田横穴墓群2次	2	川崎市										
	久本横穴墓群A	3	川崎市										
均等両閑	登尾山古墳	—	伊勢原市										
	笠塚古墳	—	伊勢原市										
	笠塚・谷戸遺跡	1	伊勢原市										
	市ヶ尾第二地区18街区	1	横浜市										
	代官山道路	6	藤沢市										
凡例	市ヶ尾横穴墓群A	1	横浜市										
	新宮台横穴墓	—	横浜市										
	桜土手古墳群	25	秦野市										
	唐沢横穴墓群	8	松田町										
	日向・淡田遺跡	2	伊勢原市										
不均等(刀側斜角)両閑	日向・淡田遺跡	1	伊勢原市										
	久野鹿訪の原古墳群	2	小田原市										
	河南沢横穴墓群	1	松田町										
	三ノ宮・下尾崎遺跡	1	伊勢原市										
	方田熊ノ台横穴墓群	19	平塚市										
不均等(刀側撫角)両閑	久本横穴墓群B	7	川崎市										
	久地西前田横穴墓群2次	2	川崎市										
	谷原古墳群	1	相模原市										
	江岱横穴墓群	2	三浦市										
	市ヶ尾横穴墓群A	18	横浜市										
不均等(刀・桿側撫角)両閑	高森・赤坂遺跡	?	伊勢原市										
	市ヶ尾横穴墓群A	5	横浜市										
	絶世吉裏古墳(上部棺床)	—	小田原市										
	桜土手古墳群	13	秦野市										
	方田熊ノ台横穴墓群	8	平塚市										
不均等(刀・桿側撫角)両閑	鶴ヶ谷横穴墓群	10	横浜市										
	浅間神社西側横穴墓群	4	大和市										
	久地西前田横穴墓群1次	5	川崎市										
	絶世吉裏古墳(上部棺床)	—	小田原市										
	久野鹿訪の原古墳群	2	小田原市										
刃側二段両閑	桜土手古墳群	11	秦野市										
	三ノ宮・下尾崎遺跡	1	伊勢原市										
	比奈津中星数積穴墓群	15	中井町										
	上依知古墳群	1	厚木市										
	北高森古墳群	3	伊勢原市										
桿側二段両閑	林添古墳群	1	厚木市										
	方田熊ノ台横穴墓群	19	平塚市										
	大塚古墳群	1	横須賀市										
	上原古墳群	1	厚木市										
	久本横穴墓群B	7	川崎市										
一文字尻	鶴ヶ谷横穴墓群	21	横浜市										
	上依知古墳群	1	厚木市										
	市ヶ尾横穴墓群A	5	横浜市										
	桜土手古墳群	13	秦野市										
	桜土手古墳群	25	秦野市										
栗尻	浅間神社西側横穴墓群	4	大和市										
	久地西前田横穴墓群1次	5	川崎市										
	林添古墳群	1	厚木市										
	方田熊ノ台横穴墓群	19	平塚市										
	大塚古墳群	1	横須賀市										
隅切尻	上原古墳群	1	厚木市										
	久本横穴墓群A	3	川崎市										
	谷原古墳群	1	相模原市										
	笠塚・谷戸遺跡	1	伊勢原市										
	大塚古墳群	4	横須賀市										
隅抉尻	鶴井沢古墳	—	横浜市										
	桜土手古墳群	24	秦野市										

神奈川県内における古墳出土鉄製品の形態的検討

関	茎	茎尻	名稱	関	茎	茎尻	名稱
直角 片開	直	—	厚木：林添1号墳(5-5)	中細	一文字尻	横須：長沢1号墳第1主体(25-1) 横須：大塚1号墳(H60IPL1-1)	秦野：桜土手25号墳(27-1) 伊勢：北高森3号墳[小刀](376-15) 厚木：林添1号墳(5-2)
	中細	—	秦野：稻荷塚古墳(266-1) 伊勢：御領原古墳群(P69)		—	藤沢：大源太古墳(5) 横須：台の坂古墳(17) 横須：大塚4号墳第1主体(104-50)	小田：久野諏訪の原2号墳(10-12) 伊勢：登尾山古墳(7-1) 伊勢：笠置・谷戸遺跡1号墳[小刀](178-7) 伊勢：笠置・谷戸遺跡1号墳[小刀](178-8) 藤沢：代官山6号墓[小刀](254-10) 横浜：新宮台横穴墓(9-3)
	先細	隅抉尻	秦野：広畑1号墳(37-2)		—	—	伊勢：日向・渋田1号墳(10-1) 伊勢：日向・渋田2号墳(17-1) 藤沢：代官山6号墓[小刀](254-11-1) 藤沢：代官山6号墓(254-12-1) 横須：吉井城山中横穴(H72IPL1-1) 横浜：市ヶ尾第二地区18街区1号墓(10-1001) 横浜：市ヶ尾第二地区18街区1号墓(10-1002) 川崎：久地西前田2次2号墓[小刀](12-5) 川崎：久地西前田2次3号墓[小刀](17-2) 川崎：久地西前田2次3号墓[小刀](17-3) 川崎：麻生台3号墓(PL120-1)
	—	—	秦野：稻荷塚古墳(266-2) 横浜：新吉田町四ツ家3号墓(5-1)		均等 両開	厚木：上原1号墳(7-1) 厚木：上原1号墳(7-4)	松田：唐沢8号墓(23-25) 厚木：金井1号墳(8-1)
	—	—	川崎：久地西前田1次4号墓(15-a)		栗尻	伊勢：笠置・谷戸遺跡1号墳(175-1-1-2)	厚木：上原1号墳(7-3) 厚木：林添1号墳(5-4) 横須：大塚1号墳[小刀](H60IPL1-2)
斜角 片開	中細	栗尻	伊勢：笠置・谷戸遺跡1号墳[小刀](178-6-1-2)	直	—	伊勢：蛭面古墳(Noなし) 横浜：市ヶ尾A1号墓(48-3)	伊勢：蛭面古墳(Noなし) 横浜：市ヶ尾A1号墓(48-3)
	—	—	秦野：稻荷塚古墳(266-3)		—	—	松田：河南沢1号墓(41-1) 川崎：久本A3号墓(13-36)
	—	—	秦野：桜土手38号墳(55-1)		—	—	—
	—	—	厚木：上原1号墳(7-2)		—	—	—
	—	—	秦野：桜土手24号墳(12-1) 横浜：糸井沢古墳前方部石室(P38-145)		栗尻	平塚：万田熊ノ台19号墓(376-6)	平塚：万田熊ノ台8号墓(367-1)
無角 片開	中細	栗尻	川崎：久本桃之園5号墓(13-29)	中細	—	小田：絶世守裏古墳上部棺床[小刀](1-13) 秦野：金目原3号墳(既報) 平塚：万田熊ノ台19号墓(376-7) 平塚：万田熊ノ台8号墓[小刀](367-2)	小田：絶世守裏古墳上部棺床[小刀](1-13) 秦野：金目原3号墳(既報) 平塚：万田熊ノ台19号墓(376-7) 平塚：万田熊ノ台8号墓[小刀](367-2)
	—	—	厚木：上依知1号墳(7-3) 厚木：寺ヶ岡古墳(3-3) 厚木：温水高坪遺跡第3地点古墳(21-1) 厚木：林添1号墳(5-3)		栗尻	伊勢：高森・赤坂遺跡(実見のみ) 厚木：上依知1号墳(7-4) 横浜：熊ヶ谷10号墓(56-1) 川崎：久地西前田2次2号墓(11-3) 川崎：井田金堀7号墓(3-3)	伊勢：高森・赤坂遺跡(実見のみ) 厚木：上依知1号墳(7-4) 横浜：熊ヶ谷10号墓(56-1) 川崎：久地西前田2次2号墓(11-3) 川崎：井田金堀7号墓(3-3)
	—	—	横浜：熊ヶ谷21号墓(110-1)		—	秦野：桜土手13号墳(73) 大和：浅間神社西側4号墓(12)	秦野：桜土手13号墳(73) 大和：浅間神社西側4号墓(12)
	—	—	厚木：林添1号墳(5-1)		—	横浜：市ヶ尾A5号墓(48-1)	横浜：市ヶ尾A5号墓(48-1)
	—	—	横浜：綱島古墳(10-1)		—	川崎：久本B7号墓(13-39)	川崎：久本B7号墓(13-39)
不均等 (斜角) 両開	直	—	伊勢：北高森3号墳(376-14)		—	川崎：久地西前田1次5号墓(19-1)	川崎：久地西前田1次5号墓(19-1)
	—	—	伊勢：三ノ宮・下尾崎遺跡1号墓[小刀](9-5)		—	—	—
刃削 二段 片開	細	栗尻	秦野：桜土手11号墳(59-16) 伊勢：三ノ宮・下尾崎遺跡1号墓(9-4)	中細	—	小田：絶世寺裏古墳上部棺床(2-3-11) 小田：絶世寺裏古墳上部棺床(1-12)	小田：絶世寺裏古墳上部棺床(2-3-11) 小田：絶世寺裏古墳上部棺床(1-12)
棘削 二段 片開	中細	一文字尻	厚木：上依知1号墳(7-2)	栗尻	—	小田：久野諏訪の原2号墳(11-24)	小田：久野諏訪の原2号墳(11-24)
	類直	栗尻	中井：比奈塙中屋敷15号墓(68-2)		—	茅ヶ：篠谷横穴墓群(赤星氏報告分)	茅ヶ：篠谷横穴墓群(赤星氏報告分)

第4図 大・小刀の関・茎形態の分類

4. 刀類の各形態における特徴について

・片関から不均等両関へ（第4・6図・第3表）

片関の大刀は6世紀中頃以前からその形態が継続しており、そのうち刃区が直角、斜角、撫角となるものはいずれも6世紀後半代にはすでに存在している。それら形態が、柄の拵えなどにより区別して採用されたかは分析資料からは不明である。直角片関は6世紀後半に多く採用され、7世紀初頭までの期間で存在したと考えられ、大塚1・4号墳や、林添1号墳、広畠1号墳などでみられる。斜角片関と撫角片関は6世紀後半～7世紀前半までの時期が考えられるが、中心となる時期は6世紀後半～末であり、それぞれの形態における先後関係などは最頻値からは明確に現れていない。

臼杵：1984によると6世紀後半に片関から不均等両関への変化が推定されており、万田熊ノ台19号墓、久地西前田2次2号墓、久本A3号墓、久本B7号墓などにおける不均等（刃側撫角）両関の6世紀後半からの展開は、過渡期における先駆的な存在として捉えられるであろうか。不均等（刃側撫角）両関は、その後7世紀中頃の盛期を迎えることとなり、出土したその数量も大幅に増加する。類似する形態である不均等（刃・棟側撫角）両関は、総世寺裏古墳、久野諏訪の原2号墳、篠谷横穴墓群でみられ、製作技術的に同グループとしての把握が可能であろうか。

・均等両関について

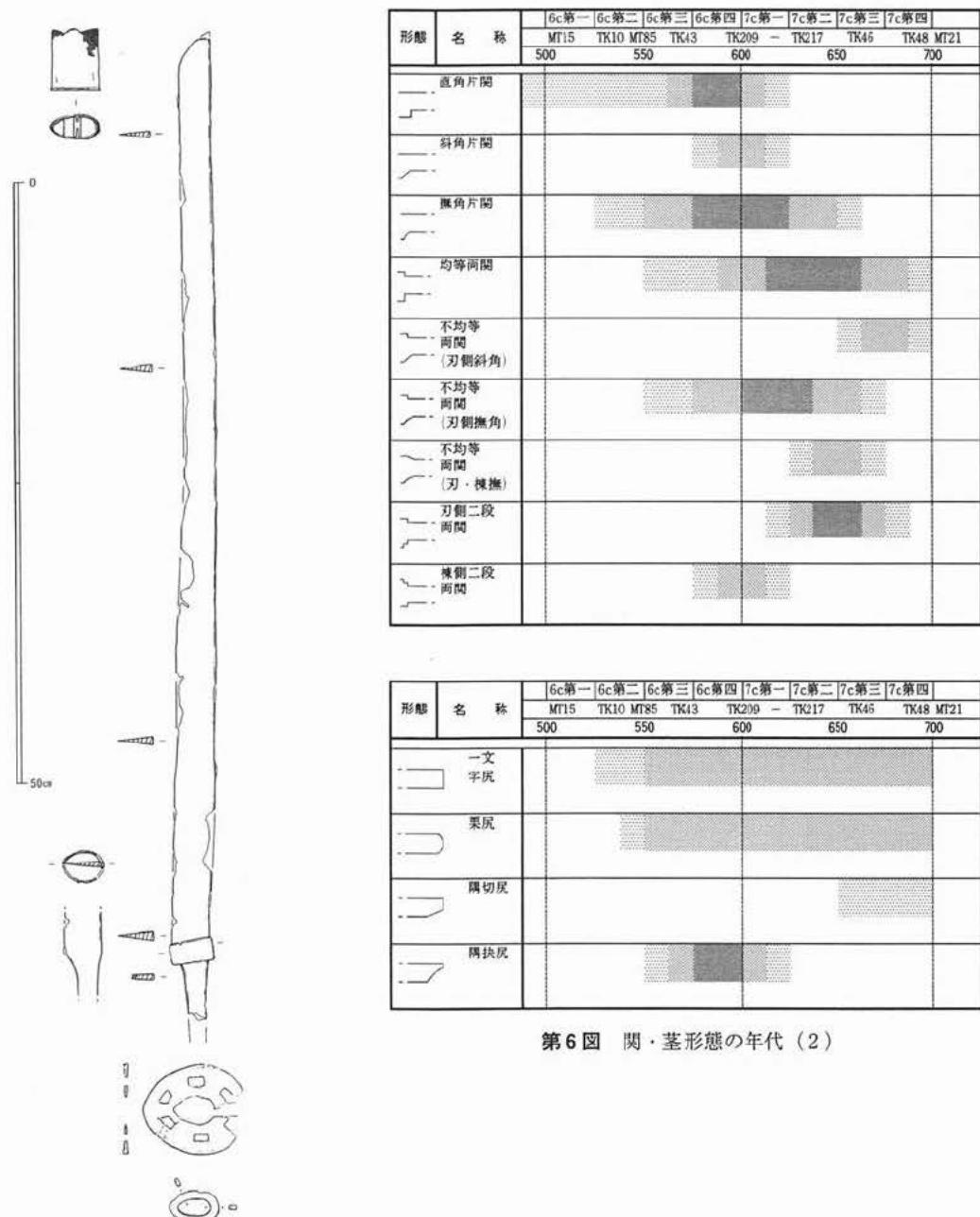
均等両関は形態の判明した大刀のなかでは、もっとも数量の多い形態である。そのうち古相を呈する林添1号墳や上原1号墳は、石室内から5～6本の大刀が出土しており、6世紀後半には存在する片関の大刀が多い。久本A3号墓も、均等両関とみられる象嵌の大刀は奥壁より数えて2本目の出土であり、年代を示す土器は初葬段階のものと考えられる。それらを鑑みて均等両関の出現を考えていくと、登尾山古墳や坪面古墳などの盟主墳に副葬された装飾大刀に求められる可能性が高い。しかし、小刀で均等両関のものは、6世紀後半から一般的に見られ、その製作における技術レベルでは旧来より存在していたものとみられる。検討資料における装飾大刀で均等両関のものは、唐沢8号墓、河南沢1号墓、日向・渋田1・2号墳、吉井城山「中」横穴、市ヶ尾第二地区18街区1号墓などがあげられ、これらのなかには地域的なまとまりを考えいく上で、重要な位置を占めるものも見受けられる。

・二段両関について

棟側二段両関は6世紀末～7世紀初頭、刃側二段両関は7世紀中頃を主体とするが、共に2例と分析例は少ない。棟側二段両関は比奈窪1号墓の円頭大刀に代表され、刃側二段両関は桜土手11号墳、三ノ宮・下尾崎1号墓で、共に径の大きな切羽が出土していることからも、袋頭（頭椎・圭頭）による拵えとも想定されるものである。

・茎尻について（第5表）

一文字尻、栗尻は後期全般に認められ、片関に一文字尻となるものは6世紀後半を主体とするものであるが、先行する長沢1号墳や綱島古墳でもみられ、大塚1号墳、林添1号墳、上原1号墳などに継続される。片関で栗尻の大刀はこれに後出するものとみられ、笠窪・谷戸1号墳、久本桃之園5号墓などがある。両関では、一文字尻が7世紀を下るものは少なく、後出するにつれ栗尻が主体となる。隅抉尻は6世紀後半～7世紀初頭を主体とする比較的時期の限定されるものであり、大塚4号墳、大源太古墳、台の坂古墳、桜土手24号墳などから出土しており、関部は片関及び不均等（撫角）両関でしか見受けられない。



第6図 閣・茎形態の年代 (2)

第5図 総世寺裏古墳出土大刀

第4表 閣・茎形態の対応関係

		一文字尻	栗尻	隅切尻	隅抉尻
片閑	直角片閑	○	○		
	斜角片閑	○			○
	撫角片閑	○	○		○
両閑	均等両閑	○	○		
	不均等(刃側斜角)両閑?			○?	
	不均等(刃側撫角)両閑	○	○		○
	不均等(刃・棟側撫角)両閑		○		
	刃側二段両閑		○		
	棟側二段両閑	○	○		

5. 象嵌資料について

X線透過撮影により象嵌資料が新たに多数発見され、時期的には6世紀後半～7世紀初頭に該当するものが多い。装飾大刀は足金具や鷲目など、その痕跡を拾い集めると県内では70例以上(鉄製鞘尻も含む)を挙げることができ、総数に占める割合は今後も増加することが予想される。

現在神奈川県で発見されている象嵌資料は、管見の限り13遺跡21例である(第6表)。そのうち報告書などに挿図として提示されているものは第7図に上げるにとどまり、また、X線写真のみ掲載されているものでも3遺跡3例と少ない。

ここで既報告資料は各報告書などの記載に譲り、今回発見されたものの各意匠をみていくこととする。第8図に模式図を提示したが実測図作成を意図していなかったため、このような簡略図にとどまった。いずれも肉眼による観察からは象嵌の有無が確認できなかったものであり、象嵌の素材も不明である。3は秦野市桜土手25号墳の鎧で、象嵌の遺存は不良である。意匠は三重線によるハート形文がおよそ4単位みられ、縁には二重線及び二重の半円文がある。7は三浦市江奈2号墓の柄頭・柄縁・鐔・鎧である。鋳化が特に顕著で、当初形態の検討も困難なものである。柄頭は円頭で、二重円文・三本平行線による亀甲繋で、ほか旋文状の象嵌もみられるが、その意匠は判然としない。柄縁と鐔は旋文状の痕跡、鎧は縁に三重線と旋文状の痕跡がみられるがこちらも判然としない。9は横浜市市ヶ尾第二地区18街区1号墓の鎧と鞘尻である。鋳化著しく、鎧は特に不明瞭であるが、縁に1本の直線と2列の対向する半円状文が施される。鞘尻には縁に半円文のほか、4単位のハート形文の内部が旋文により充填され、傍らには二重円文が4単位あしらわれる。13は川崎市久地西前田1次調査5号墓の柄縁と鐔、鎧である。鋳化著しく、鐔の象嵌の遺存が特に不良であった。柄縁は縁に半円文が、鐔は不明瞭ながら耳に二重の半円文がみられる。鎧は縁に二重線と、4本の併行波状文が施される。

柄縁金具・鐔・鎧とセットで象嵌されるものが多く、桜土手25号墳、江奈2号墓、久地西前田1次調査5号墓で認められる。このことからみても鎧や鐔のみ単独で出土した遺存状況の悪い大刀にも、本来的には各個体に象嵌が施されていたことが推測されるものである。桜土手25号墳はハート形の意匠が主体的に用いられ、江奈2号墓では施文状の痕跡、久地西前田1次5号墓では波状文や半円文で、いずれも似通ったイメージの意匠が採用されるという傾向がある。

玄室内で多数の大刀が出土している久野諏訪の原2号墳や林添1号墳、市ヶ尾第二地区18街区1号墓、久本A群3号墓などでも、象嵌の施された大刀は1本のみの存在である。また、視点を広げて横穴墓群及び古墳群のなかでみても、いずれも群中から1本のみの出土となっている。

現時点での県内における分布を古代の郡域とされるエリアにあてはめていくと、足下郡(久野2号)、大住郡(三ノ宮字下尾根山)、愛甲郡(林添1号)、鎌倉郡(久木5丁目10号)、久良郡(駒岡町岩瀬)、都筑郡(市ヶ尾第二-18街1号)で各郡内に1本の象嵌大刀がみられる。余綾郡(桜土手25号・諏訪脇)、御浦郡(江奈2号・吉井城山)では郡内に2本の象嵌大刀で、橘樹郡(久地西前田1-5号・久本A3号・加瀬台4号)のみ3本の象嵌大刀がある。また、目を転じて環頭大刀をみると足上郡(塚田2号・黄金塚)、大住郡(栗原中島・御領原2号)、高座郡(川名新林右西斜面2号・本郷)で出土しており、大住郡を除いてはいずれも象嵌大刀の出土していない地域であり興味深い。大住郡は三ノ宮を中心として、いわゆる袋頭の大刀も多く出土しており、大刀及びそれ以外の遺物でも優品の出土が多い地域である。

第6表 県内出土象嵌資料

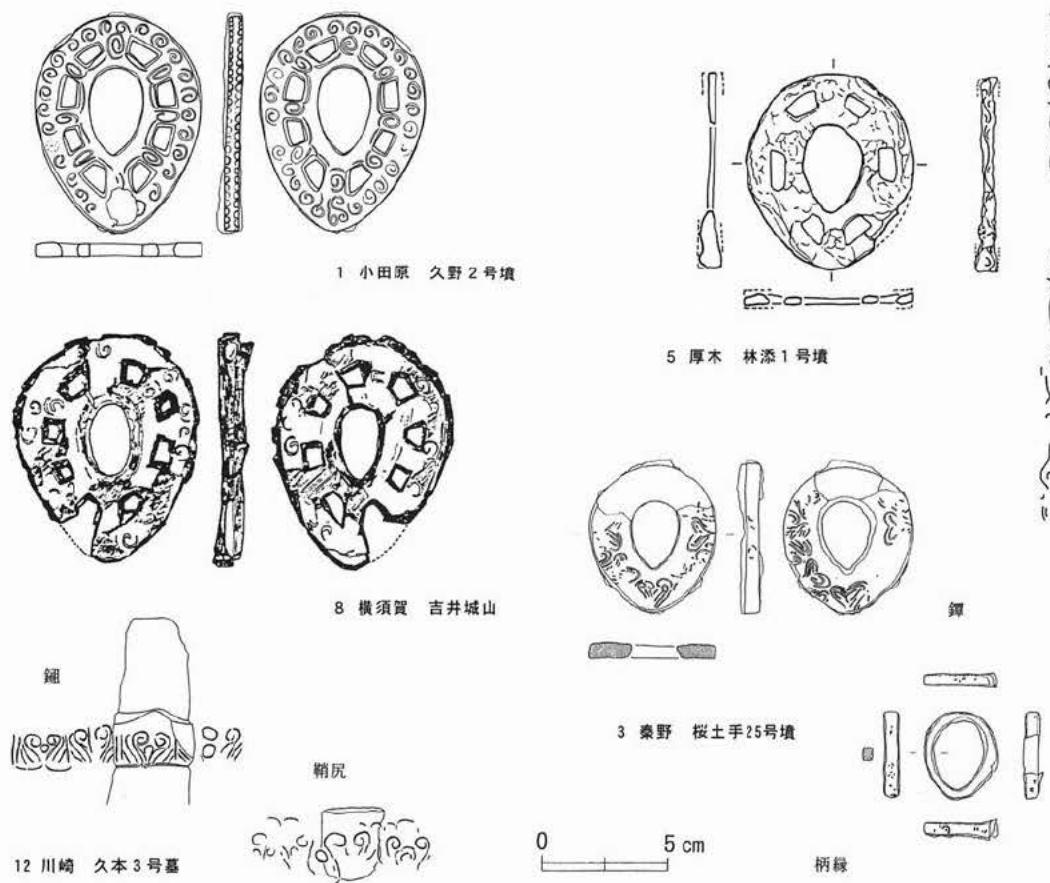
No.	市町村	群名	号名	部位・代表的な文様												他特徴	
				頭	材質	文様	柄縁	材質	文様	鍔	窓数	材質	文様	鍔	材質	文様	
1	小田原	久野 諏訪の原	2号墳	—	—	—	○	8	鉄	渦文 半円文	—	—	—	—	—	—	
2	二宮	諏訪脇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	鉄	鱗状文	—	—	
3	秦野	桜土手	25号墳	—	○	鉄 半円文?	○	無	鉄	ハート形文	●	鉄	ハート形文 三重線 二重半円文	—	—	—	
4	伊勢原	三ノ宮字 下尾根山	—	—	—	—	○	8	鉄	(半) 円文?	—	—	—	—	—	—	
5	厚木	林添	1号墳	—	—	—	○	6	鉄	波状文 半円文	—	—	—	—	—	—	
6	逗子	久木5丁目	10号墓	—	—	—	◎	無	鉄	渦文	—	—	—	—	—	—	
7	三浦	江奈	2号墓	●	鉄	亀甲繋 旋文状	●	鉄	旋文状?	●	無	鉄	旋文状?	●	鉄	旋文状 三重線	—
8	横須賀	吉井城山	?号墓	—	—	—	○	8	鉄	渦文	—	—	—	—	—	—	
9	横浜	市ヶ尾第二 地区18街区	1号墓	—	—	—	—	—	—	●	鉄	半円状	●	鉄	ハート形文 二重円文	柄糸線巻 痕跡のみ	
10	鶴見区駒岡町 岩瀬	—	—	—	○	8	鉄	円文?	—	—	—	—	—	—	—	柄樹皮 巻き?	
11	川崎	丁原寺古墳? (加瀬台4号)	—	○	鉄	亀甲繋? 旋文状?	—	—	—	—	—	—	—	—	—	頭椎	
12	久本A	3号墓	—	—	—	—	—	—	○	鉄	蕨手状 ハート形文	○	鉄	蕨手状 ハート形文	—	—	
13	久地西前田 1次	5号墓	—	●	鉄	半円文?	●	無	鉄	二重 半円文?	●	鉄	波状文 二重線	—	—	柄糸線巻 痕跡のみ	

・象嵌13遺跡21例、H14(2002)年度研究助成新発見 4遺跡10例

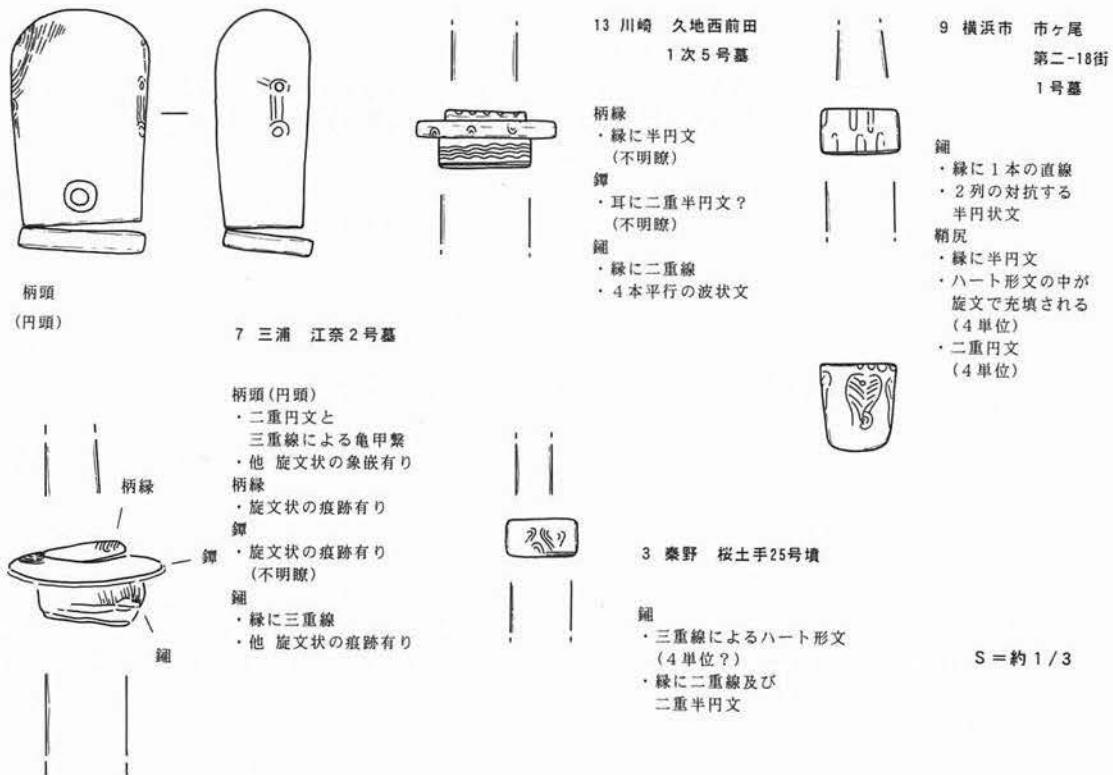
・●=研究助成にて新発見、◎=逗子市久木5丁目 2002年度逗子市新発見

・斜体は東京国立博の資料、東文研X線フィルム目録より抽出

※1 蕨手文の向きに注意。袋頭であれば蕨手文が向き合うため、鞆尻の可能性高い。埼玉県熊谷市三ヶ尻林4号墳では鍔と鞆尻の植物文は同じ方向となる。



第7図 県内出土既報告象嵌資料の抜粋 [番号は第6表に準ずる]



第8図 X線透過結果からの象嵌資料模式図〔番号は第6表に準ずる〕

6. 地域的な特徴と副葬意義について

田尾・河合1997による集成では断片資料も含めて436振が挙げられるが、今回分析した資料数は1/4以下にとどまる。関の形態ごとで地域的な多寡は見受けられるが、分析抽出資料の偏在とも考えられる事象である。しかし、古相を呈す片関では横須賀・厚木などでその数は多く、不均等や均等の両関では伊勢原や川崎などで多い。この数は、年代ごとに各地域に展開する古墳の増減を示すものとして把握される。

そのなかで均等両関、不均等両関は県内全域に分布しており、それは6世紀末～7世紀にかけての古墳の数量的な増加に起因するものと考えられるが、形態的な特徴を抽出するなら、不均等(刃・棟側撫角)両関は、現在相模(小田原・茅ヶ崎)のみに存在するだけである。

刀類の関部が片関から両関となることと、鉄鎌が台形関から棘状関になることは、ほぼ同時代の現象として捉えられ、それは6世紀末～7世紀初頭を境として漸移的に変化するようである。

刀類の遺存状態には良し悪しがあり、それは埋没していた土壤などに左右されることが多い。しかし、馬具などを供伴する大刀は堅緻な印象を受けるものが比較的多く、それは各時代を通して共通する。しかし、年代を追うごとに脆弱なイメージを受ける大刀が増加することが看取され、その傾向は7世紀前半頃より漸次認められる。形態的には同類となるものでも、その素材や製作についても検討する必要性が考えられる。

副葬の歴史的背景を考えると、賜与方法や製作主体などの議論にまで派生せざるを得ない。象嵌大刀が6世紀後半～7世紀初頭に多くみられること、不均等や均等の両関の数が7世紀に入り大幅に増加すること、遺存良好な資料が年代を追うごとに減少するなどの現象がある。7世紀に入り更に在地の盟主は地方官人という性格を強くし、中央と地方の関係が変化したことが想定され、大刀などの武器類の製作も、それに伴い在地へと転化されていったことも、製品から感受される現象においては考えられるものである。

X線撮影作業及び協力者について

- ・X線透過資料は報告書及び刊行物掲載の遺物をその対象とし、抽出にあたっては県内文化財行政担当者の助言を得た。

(順不同・敬称略)

鶴見大学 永田勝久・福田 誠・山田真穂、青山学院大学 山口正憲、長後高校 今野裕幸、
小田原市 山口剛志・大島慎一・岡 潔、秦野市 大倉 潤・霜出俊浩、伊勢原市 立花 実、
厚木市 佐藤建二、大磯町 國見 徹・鈴木一男、平塚市 明石 新、相模原市 (故)木村 衡、
大和市 曽根博明・柏柳 豊・川俣桂子、海老名市 押方みはる、茅ヶ崎市 大村浩司・高橋 和、
逗子市 佐藤仁彦、葉山町 伊丹 徹、三浦市 須田英一、横須賀市 稲村 繁・岩橋英子、
横浜市 小倉淳一、川崎市 浜田晋介、(財)かながわ考古学財団 大上周三・上田 薫
本研究を遂行するにあたっては次の諸氏の協力をいただいた。(順不同・敬称略)

小川裕久・依田亮一・宍戸信悟・富永樹之・中澤正人・市毛秀人・曾我雅弘・野坂優介

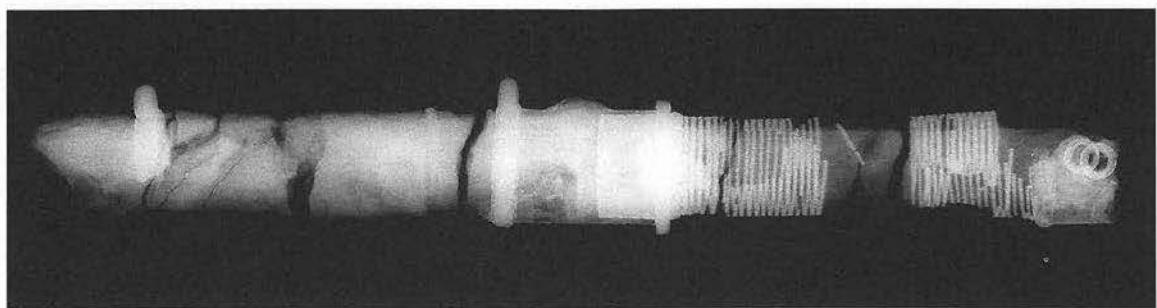
引用文献

- 1953 神奈川県教育委員会 『文化財調査報告』第19集
1956 古江亮仁・渡部久喜 『川崎市井伊勢宮金堀横穴群第7号穴調査書』
1959 鎌倉市 「大源太古墳」『鎌倉市史』資料編
1972 谷原遺跡調査団 『谷原』神奈川県相模原市谷原遺跡の調査
1973 赤星直忠 「神奈川県調査脇横穴墓群(西半部)」「神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告」4 神奈川県教育委員会
1974 小出義治・久保哲三 「秦野下大槻」「秦野の文化財」第9・10集 秦野市教育委員会
1976 赤星直忠 「三浦市江奈横穴群」「神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書」10
1977 仲野正美 「上依知古墳群(II・1・1号墳)」「神奈川県埋蔵文化財調査報告」12 神奈川県教育委員会
1978 曽根博明 「浅間神社西側横穴古墳群発掘調査報告書」「大和市文化財調査報告書」第1集 大和市教育委員会
1979 神奈川県県民部県史編纂室 「吉井城山横穴群」「神奈川県史」資料編20 考古資料
1980 寺田兼方・中島 登 「藤沢市川名新林横穴群調査概報」「藤沢市文化財調査報告書」第15集
1982 横浜市 「第2編市カ尾古墳群の発掘」「横浜市史」資料編21
1983 富永富士雄・大村浩二 「香川篠山横穴墓調査報告」「茅ヶ崎市文化財資料集」第9集 茅ヶ崎市教育委員会
1984 寺田兼方 「藤沢市川名新林右西斜面の第2号横穴墓出土環頭大刀について」「藤沢市文化財調査報告書」第19集
1985 立正大学考古学研究室 「武藏・熊ヶ谷横穴墓群」
1985 秦野市 「南地区の遺跡 稲荷塚古墳」「秦野市史」別巻考古編
1985 戸田哲也 「横浜市緑区東方横穴墓群発掘調査報告書」東方横穴墓群発掘調査団
1986 東京国立博物館 『東京国立博物館図版目録・古墳遺物篇(関東Ⅲ)』
1986 上田 薫他 「代官山遺跡」「神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告」第11集
1988 福島県立博物館 『日本刀の起源展 一直刀から彎刀へ』福島県立博物館展示図録
1988 川崎市 「94麻生台横穴墓群」「川崎市史」資料編1
1989 横須賀市人文博物館 「H601大塚1号墳」「考古資料図録」
1989 南足柄市 「8塚田古墳群」「南足柄市史」1 資料編
1989 池田 治・村上 始他 「からさわ・かなんざわ遺跡発掘調査報告書」東海自動車道改築松田町内遺跡調査会、
からさわ・かなんざわ遺跡調査団
1989 鈴木重信・安藤広道 『綱島古墳』横浜市埋蔵文化財調査委員会
1989 吉田章一郎他 『神奈川県秦野市桜土手古墳群の調査』桜土手古墳群発掘調査団
1990 滝沢 亮 『新吉田町四ツ家横穴墓群』新吉田町四ツ家地区急傾斜地崩壊防止工事にかかる横穴墓発掘調査団
1991 上田 薫・長谷川 厚・近野正幸 『神奈川県の横穴墓群』茨城県考古学協会シンポジウム 関東横穴墓遺跡検討会資料
1992 小出義治他 「台の坂遺跡」「横須賀市文化財調査報告書」第24集
1993 厚木市秘書部市史編さん室 「依知地区6林添1号墳」「依知地区7上原1号墳」「厚木市史」古代資料編(1)
1993 横須賀市人文博物館 「H721吉井城山横穴群」「考古資料集録」
1995 立花 実 「三ノ宮・下尾崎遺跡、三ノ宮・上栗原遺跡発掘調査報告書」「伊勢原市文化財調査報告書」第17集
1995 石井昌國 「古代刀の変遷」「古代刀と鉄の科学」雄山閣
1995~2002 古墳時代研究プロジェクトチーム 「横穴墓の研究(1)~(8)」「かながわの考古学」第5集~「研究紀要」7
神奈川県立埋蔵文化財センター・財団法人かながわ考古学財団
1996 野崎欽五他 「久野第2号墳」「小田原市文化財調査報告書」第58集

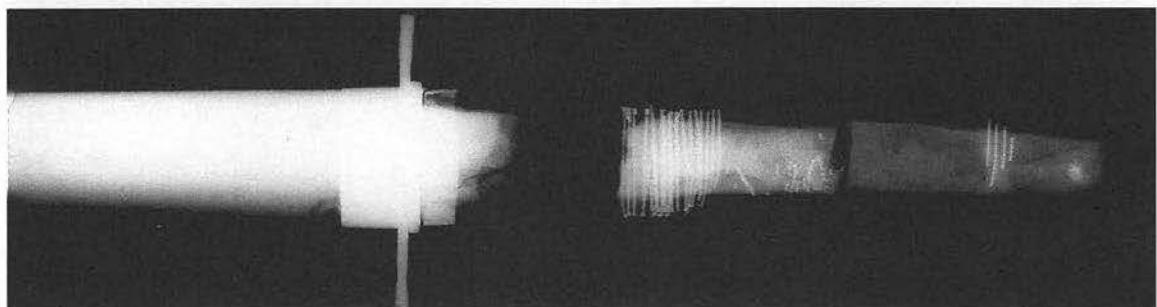
- 1996 溫水高坪遺跡調査団 「神奈川県厚木市溫水高坪遺跡群」
- 1996 後藤喜八郎 「久本横穴墓群発掘調査報告書」久本横穴墓群発掘調査団
- 1997 玉口時雄・大坪宣雄他 「横須賀市吉井・池田地区遺跡群Ⅱ」横須賀市吉井・池田地区埋蔵文化財発掘調査団
- 1997 田尾誠敏・河合英夫 「神奈川県の状況」「遺物からみた律令国家と蝦夷」資料編第Ⅱ分冊 第6回東日本埋蔵文化財研究会
- 1997 浜田晋介 「加瀬台古墳群の研究Ⅱ」「川崎市市民ミュージアム考古学叢書」3
- 1997 小池 聰他 「川崎市高津区久本桃之園横穴墓群」桃之園横穴墓群発掘調査団
- 1998 鹿島保宏・山田光洋 「市ヶ尾第二地区18街区(大場第二地区21街区)横穴墓群」財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 1998 東京国立文化財研究所 「東京国立文化財研究所所蔵X線フィルム目録Ⅰ－考古資料編－」
- 1998 斎木秀雄他 「神奈川県逗子市久木5丁目横穴群の調査」久木5丁目横穴群調査団
- 1998 竹石健二他 「久地西前田横穴墓群－第1次調査－」久地西前田横穴墓群発掘調査団
- 1998 竹石健二他 「久地西前田横穴墓群－第2次調査－」久地西前田横穴墓群発掘調査団
- 1998 寺村光晴・西川修一他 「伊勢原市北高森古墳群と出土遺物」「かながわ考古学財団調査報告」33
- 1998 厚木市秘書部市史編さん室 「玉川地区59金井1・2号墳」「南毛利地区74寺ヶ岡古墳」「南毛利地区90高坪遺跡群」「厚木市史」古代資料編(2)
- 1998 古墳時代研究プロジェクトチーム 「小田原市久野・総世寺裏古墳の調査(1)」「神奈川県埋蔵文化財調査報告」40
- 1999 古墳時代研究プロジェクトチーム 「小田原市久野・総世寺裏古墳の調査(2)」「神奈川県埋蔵文化財調査報告」41
- 1999 平塚市 「万田熊之台横穴群」「平塚市史」11上 別編考古(1)
- 1999 立花 実・手島真実 「伊勢原市登尾山古墳再考」「東海史学」第33号
- 1999 小出義治他 「長沢1号墳・熊野神社下遺跡」長沢1号墳・熊野神社下遺跡調査団
- 1999 長谷川 厚他 「新宮台横穴墓」「かながわ考古学財団調査報告」第82集
- 2000 武井 勝他 「神奈川県秦野市桜土手古墳群の調査(第2次)」桜土手古墳群第2次発掘調査団
- 2000 柏木善治他 「笠窪・谷戸遺跡」「かながわ考古学財団調査報告」67
- 2000 宮戸信悟他 「三ノ宮・下谷戸遺跡Ⅱ」「かながわ考古学財団調査報告」76
- 2001 秦野市内埋蔵文化財調査会 「金目原古墳群2001発掘調査概要報告書」秦野市教育委員会監修
- 2001 井出智之・河合英夫 「日向・渋田遺跡」「高森・赤坂遺跡」「いせはらの遺跡」I
- 2001 横浜市歴史博物館・(財)横浜市ふるさと歴史財団 「横浜の古墳と副葬品」企画展展示図録
- 2002 上田 薫・三瓶裕司 「比奈窪中屋敷横穴墓群」「かながわ考古学財団調査報告」136

参考文献

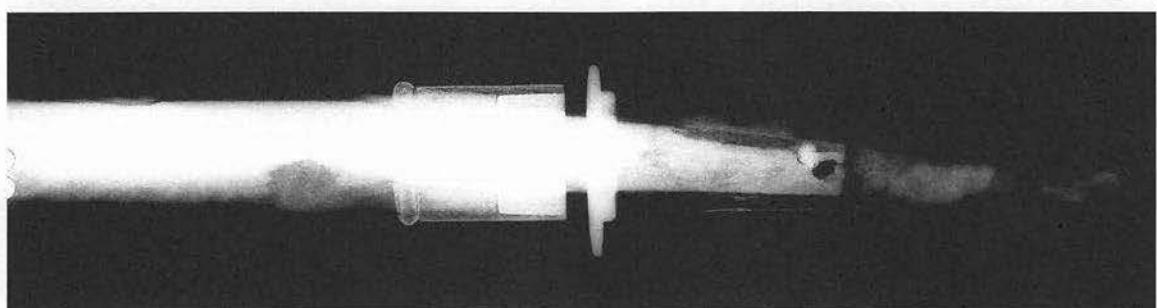
- 1979 穴沢啄光・馬目順一・中山清隆 「相模出土の環頭大刀の諸問題」「神奈川考古」第6号
- 1984 白杵 熟 「古墳時代の鉄刀について」「日本古代文化研究」創刊号 P H A L A N X 古墳文化研究会
- 1985 横田義章 「古墳時代の象嵌文様」「九州歴史資料館研究論集」10
- 1986 小林行雄 「古墳時代の大刀(講演録)」「研究紀要」埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 1986 滝瀬芳之 「円頭大刀・圭頭大刀の編年と佩用者の性格」「考古学ジャーナル」No266
- 1986 穴沢啄光・馬目順一 「日本における龍鳳環頭大刀の制作と配布」「考古学ジャーナル」No266
- 1986 橋本博文 「金銀象嵌装飾円頭大刀の編年」「考古学ジャーナル」No266
- 1986 西山要一 「古墳時代の象嵌一刀装具についてー」「考古学雑誌」第72巻第1号
- 1987 町田 章 「第6章第1節岡田山1号墳の儀仗刀についての検討」「出雲岡田山古墳」島根県教育委員会
- 1987 新納 泉 「戊申年銘大刀と装飾付大刀の編年」「考古学研究」第34巻第3号
- 1988 杉山秀宏 「古墳時代の鉄鎌について」「檜原考古学研究所論集」第八
- 1989 金子真土・関 義則 「日本の装飾付大刀」「特別展 古墳－かざり大刀の世界－」埼玉県立博物館
- 1989 田中広明・大谷 徹 「東国における後・終末期古墳の基礎的研究(1)」「研究紀要」第5号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 1990 菊地芳朗他 「大年寺山横穴群」「宮城県文化財調査報告書」第136集
- 1991 末永雅雄 「日本の武器〈大刀と外装〉」末永雅雄著作集4 雄山閣
- 1991 本村豪章 「古墳時代の基礎研究稿－資料篇(2)－」「東京国立博物館紀要」第26号
- 1993 橋本博文 「亀甲繋鳳凰文象嵌大刀再考」「翔古論聚」久保先生追悼論文集
- 1994 滝瀬芳之・野中 仁 「埼玉県内出土象嵌遺物の研究－埼玉県の象嵌装大刀－」「研究紀要」第12号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



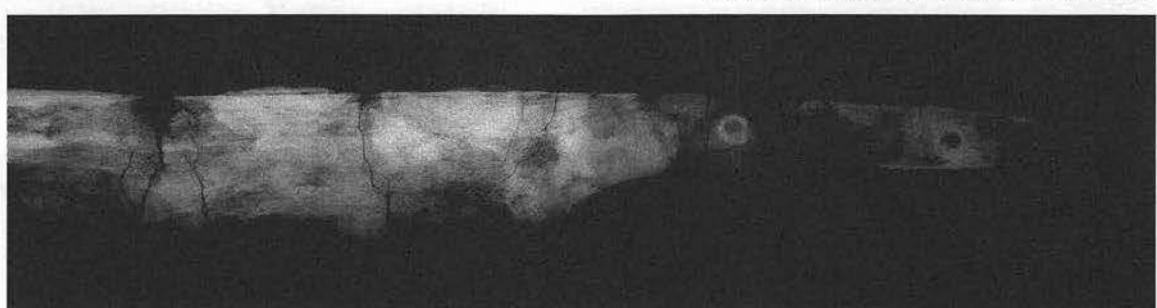
伊勢原 坪面古墳：第1表26



伊勢原 登尾山古墳：第1表25



小田原 久野諏訪の原古墳群2号墳：第1表01



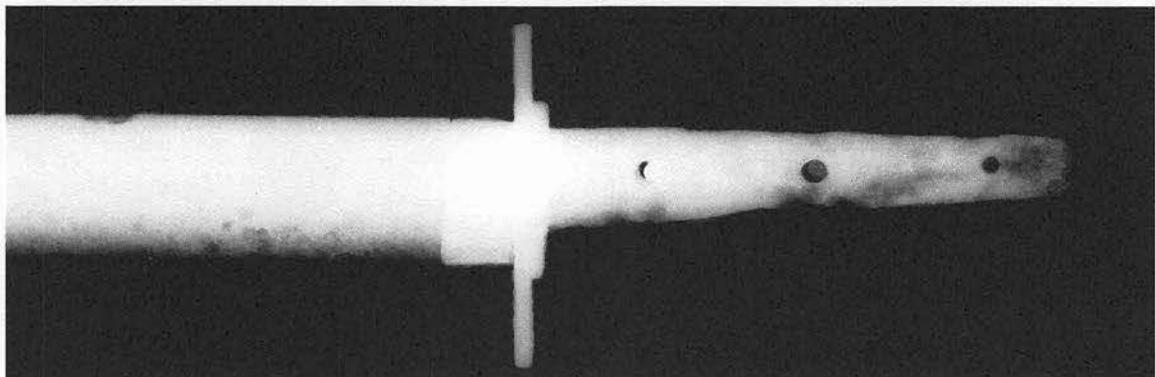
横須賀 大塚古墳群1号墳：第1表70



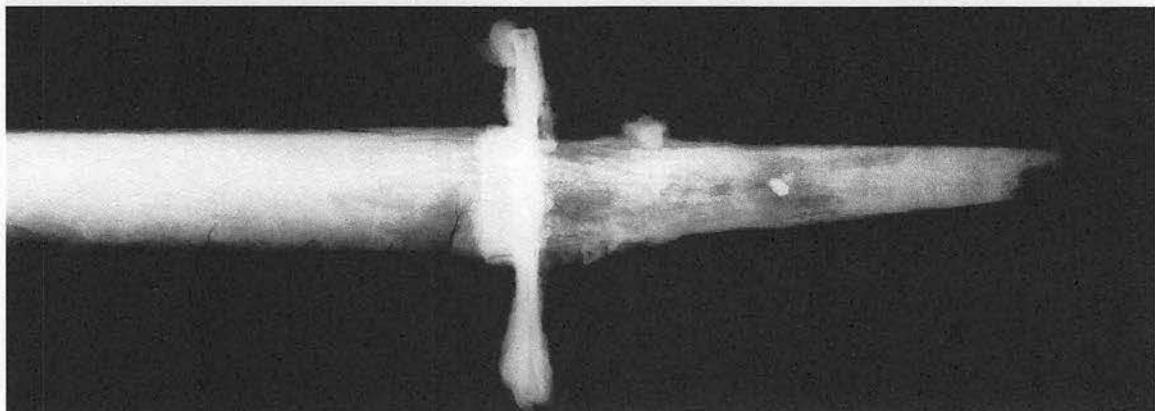
厚木 温水高坪遺跡群第3地点古墳：第1表60（報274図-17）



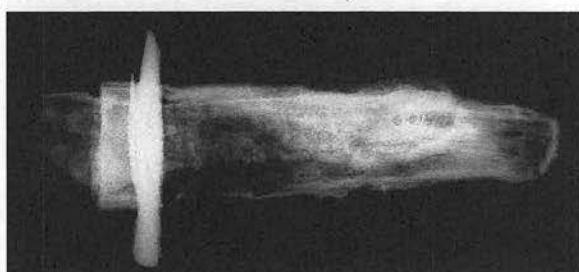
小田原 久野諏訪の原古墳群2号墳：第1表02（報13図-38）



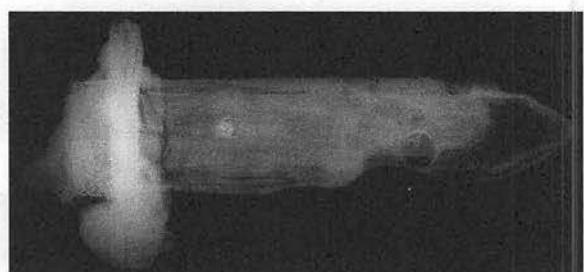
大和 浅間神社西側横穴墓群 4号墓：第1表61



茅ヶ崎 香川篠山横穴墓群 5号墓：第1表62



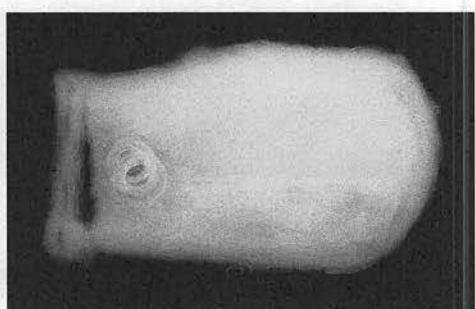
川崎 久地西前田横穴墓群 2次 2号墓：第1表86



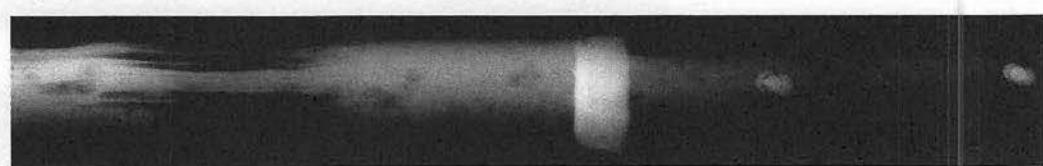
川崎 久地西前田横穴墓群 1次 5号墓：第1表85



三浦 江奈横穴墓群 2号墓：第1表75



横浜 市ヶ尾第2地区18街区横
穴墓群 1号墓：第1表81



秦野 桜土手古墳群 25号墳：第1表11